

もう一つの韓流ドラマ

— 『星を射る』(2002) から読み解く韓国人の精神世界—

丁 貴 連 ・ 檉 宿 英 子¹

目次

はじめに：コロナ禍の第4次韓流ブーム

I. 隠されたエピソード

1. 韓国人の星観-自分の思いを遂げる星
2. 日本人の星観-亡き人を重ねて見る星

II. 名もない星たちが描くそれぞれの夢

1. 『星を射る』(2002. SBS)
2. あらすじ

III. 垂直の恨(ハン)

1. イェリンの恨-貧しい生立ち
2. ドフンの恨-金持ちから転落

IV. 水平の情(ジョン)

1. 無償の情-妹への「情」
 - 1-1. 予備校
 - 1-2. 母親との約束-「兄弟星」
2. 分かち合いの情-ソンテへの「情」
 - 2-1. パダを訪ねるソンテ
 - 2-2. 障害をもつソンテの夢を応援する
 - 2-3. 同じ釜の飯を食べる

おわりに：夢に向かって「星」に矢を射る

はじめに:コロナ禍の第4次韓流ブーム

昨今、私たちは新型コロナウイルス感染症の世界的な流行で、当たり前だと思っていた日常生活が送れず、不便な暮らしを強いられている。そうした中で、新聞やマスコミなどは、Netflixで世界に配信中の韓流ドラマ、『愛の不時着』(2019・tvN)と『梨泰院(イテウオン)クラス』(2020・JTBC)が広く世界に知られ人気を博し、日本でも話題になっていると報

じている。コロナ禍によって働き方も変り、私たちは、いつでもどこでも、配信されたドラマをパソコンやスマートフォンで観られるようになった。そのため、10代の若者から、中高年、さらに壮年とその年齢層も厚くなり、『梨泰院クラス』は特に中年の男性に人気²がある。

今から17年前、韓流ブームの原点となった『冬のソナタ』(2002)は、中高年女性の圧倒的な人気で、その熱狂ぶりをメディア他が取り上げ、「冬ソナ」ファンだということ「オバタリアンの男狂い」だとか、果ては「日本社会のゆがみ」だとか揶揄された³。そのため、韓流ドラマを観ていると言いつらい空気感が日本社会にあった。しかし、現在は、反韓の論客で知られる作家の百田尚樹が、『愛の不時着』で次のようにツイートしている。

韓流などにハマるのはアホなオバハンだけやと思ってたが(中略)いつのまにかハマった。(中略)すいません、韓流なめてました。

作家の目から見て、なるほどなあ、と感心するところが随所にある。(以下略)

『愛の不時着』は、アメリカ人やヨーロッパ人が観ても面白いと感じるのではないだろうか

2 稲田豊史は「『梨泰院クラス』が「韓流嫌いの中年男性」にも響いた3つの理由」の中で「努力・勝利を地で行く本作は、3~40代男性にとって直球どストライクで、さらに、仲間を絶対的に信じ、誠実を商売の信条とし、どんな窮地に陥ってももうたえない。その心得とリーダー論が中年男性に受ける理由」と分析している。<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/74070> (2020年11月10日検索)。

3 林香里『『冬ソナ』にハマった私たち』(文藝春秋、2005)29頁。

1 韓流ドラマ研究家、元宇都宮市教育委員会職員。

と思う。(2020年11月23日⁴)

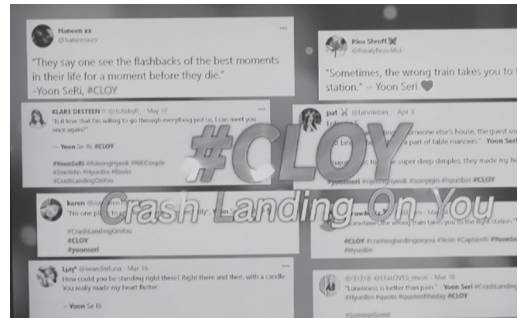
(下線は筆者)

この他にも、ジャーナリストの治部れんげも、「最初はそんなベタなタイトルのドラマ、私はみないな—と思ったが、友人の薦めで試しにみたら虜になり、コロナ禍の心のお守りの存在になっている」と話す⁵。さらに、政治家の茂木敏光外務大臣までもが、「緊急事態宣言中には、ネットフリックスで最近話題の『愛の不時着』も『梨泰院クラス』も全部観た⁶」と公言している。

このように、二作品の人気によって、これまで韓流ドラマに興味関心がなかった人や、反韓の人の中老年の男性たちも観てブームになり、雑誌等には、「コロナによる外出自粛でブレイクした、第4次韓流ブーム⁷」の見出しが見られるようになった。

中でも『愛の不時着』は2020の新語・流行語大賞の候補になるほど大ヒットし、その人気はとどまるどころを知らない。

ツイッターやインスタグラムには、「初めて見た韓国ドラマ『愛の不時着』にはまった」「自粛生活の唯一の彩」「もう見るのは5回目」「全話一気に見ました」と連日、『愛の不時着』への賛辞が並ぶ⁸。日本だけではない。中東や東南アジア、米国、英国、カナダ、ブラジルなど世界中の視聴者からも感想が寄せられているのである。その一部が以下である。



【図1⁹】SNSで世界から寄せられた『愛の不時着』の投稿 (NHK.Eテレ「世界にいいね! つぶやき英語」)

I binge watched Crash Landing On You over 2 days and it's one of the best shows I've ever seen. (中略) #CLOY #kdrama. (@Miss_Bethaneece)。 (私は、『愛の不時着』を2日間かけて観まくりました。今まで観た中の最高の番組の一つです¹⁰)

これほどまでに、韓流ドラマが受容され支持されるのはなぜか。韓流ドラマの17年を振り返ってみると、人気の要因は、従来の韓流ドラマ色の家族愛を生かしながら、現実の女性が、男女平等やジェンダーが進むなど、変化しているところや、学歴競争や北朝鮮など色々なテーマをもってきて、社会を映しながらその中で、男女の恋愛の要素も入れているので、観ていて楽しいし、内容も考えさせられるので、文化が違っていてもドラマに惹きつけられる。

ところで、世界でも観られるほど着実に実力をつけてきた韓流ドラマだが、初期から変わらないものとして、ずっと描かれてきたものがある。それが、「星」である。実は、韓国人を知る上で「星」は、重要なキーワードとなるのだ。だが、日本で韓流ドラマの星に注目し、指摘しているのは小倉紀蔵¹¹で、それ以外の研究

4 「百田尚樹 (@hyakutanaoki) November 23, 2020」より。https://twitter.com/hyakutanaoki?lang=ja (2020年11月24日検索)。

5 治部れんげ『推し』への愛 私の生きがい『朝日新聞』(2020年11月29日付け)20面。作詞家の松本隆も、「日本にない視点、それが新しかった」、「表現力が豊、そこに惹かれる」などの理由から、韓流ドラマが好きで、実は韓流ドラマ歴20年以上だと語る。『週刊文春WOMAN』(2020年秋号、文藝春秋)160-162頁。

6 『文藝春秋』(2020年10月号、文藝春秋)143頁。

7 『NEWS ポストセブン』「コロナによる外出自粛でブレイクした「第4次韓流ブーム」(2020年8月8日付け)、https://news.goo.ne.jp/article/postseven/entertainment/postseven-1584584.html (2020年11月17日検索)。

8 同上。

9 NHK.Eテレ「世界にいいね! つぶやき英語『愛の不時着』世界からの投稿」(2020年11月26日放送)。

10 前掲(註8)。

11 小倉紀蔵『韓国ドラマ、愛の方程式』(ポプラ社、2004)20-21頁。

者は、そのことにあまり関心を示さないのが現状である。しかし、星に注目して韓流ドラマを観ると、『冬のソナタ』以来、星が出てくる人気のドラマが、日本にたくさん紹介されている（表1を参照）。

それらの星は、韓国人の精神世界や韓国文化を映し出しているが、中々注目されないテーマである。だが筆者は、「星」こそが、韓国と韓国人を浮き彫りにする大事な素材だと考える。そのように、星の視点からドラマを観ると、もう一つの韓流ドラマが浮かび上がってくる。

I. 隠されたエピソード

1. 韓国人の星観 — 自分の思いを遂げる星

韓流ドラマのすべてに共通して出てくるのが「星」である。韓流ドラマを観ると、日本のドラマでは見られない「星」が隠れエピソードとして、よく描かれている。『冬のソナタ』は、初恋を描いたドラマのため、純愛ばかりが話題になり、そのことはあまり注目されなかった。けれども、星は、「純愛を高めていくもの」として、「星」が素材として使われている。このような、星が出てくるドラマは、日本人にたくさん紹介されている。それが次項の【表1】である。

このように、日本に紹介された人気のある韓流ドラマのほとんどに星が出てくるし、その星も「北極星」や「北斗七星」といった一般的に良く知られている強い星が出てくる。その描き方を見ていくと、たとえば「北極星」（10回）は、数ある星の中心にある強い星で、道に迷った時の道標になるなど、人を導く星として描かれている。「北斗七星」（10回）は、高貴な人の誕生に関係する重要な星として出てくる。一方「流れ星」（11回）は、近代以前では、凶として捉えていて、時代劇の『トンイ』では、流れ星を見て「落ちていく星を見るのは凶兆だと

か。見たものは死ぬ¹²⁾」の台詞がある。一方、現代劇ドラマには、日本にもある流れ星の伝承「流れている間に3回願いを唱えたと叶う」の意味として、流れ星が出てくる。

みんなが知っている星の他に、実は「名もない星」（12回）が多く出てくる。現代劇ドラマでは特に、星そのものよりは、星に自分の思いや願いを遂げられるようなものを祈る描写になっている。

このように星を見てくると、韓国ではテレビドラマにとどまらずに 詩や小説でも星が多く描かれていることから、韓国人は星が大変好きな民族のような気がする。

2. 日本人の星観 — 亡き人と重ねて見る星

日本で、星が出てくるドラマは、数が少ないがある。そして、星は、日本でも詩や小説やドラマでも描かれている。日本人の星を考えると、2011年3月11日に起きた東日本大震災の記憶を思い出す。地震と津波に襲われた被災地域では、悲惨な状況で、失意のどん底にいたが、人々を元気づけたのが「満天の星」で、天の星々が被災者たちを奮い立たせ、「悲しむより、何とかこの震災を乗り越えて生きて行こう」と生き方を示してくれた¹³⁾。その一方で、「名もない星」を見て「死んだら星になる¹⁴⁾」、「輝く星は、亡くなった人が迷わないように明るく照らす道しるべ¹⁵⁾」と話す人がいるように、名もない星は死生観と関係しているように思える。

一般的に、日本人が星を見るといって、亡き人を偲んだり、大切な人を思ったり、我が身の

12 『トンイ』57話、DVD『トンイ』パップ（2012）。

13 丁貴連・樫宿英子「韓国人と星、そして韓流ドラマー東日本大震災と「満天の星」を手掛かりとしてー」（2020年9月）宇都宮大学国際学部研究論集第50号。

14 「震災の日の夜 被災者が見た夜空再現 平塚で9、11/神奈川県」『朝日新聞/神奈川県』（2014年3月6日）29面。

15 高橋道子「ティータム/満天の星空」『河北新報』（2013年4月2日付け）。

【表1】星が出てくるドラマとその台詞：1994年～2016年（韓国での放送年）

ドラマ名/放送年	描写の星	星のあるせりふ
『愛の挨拶』 1994-1995	北斗七星	ママが教えてくれたの。道に迷ったら、北斗七星を探そうよ。（13話）
『インビテーション -自分への招待-』1999	北極星	北極星は二等星だから明るくはないんだ。（中略）山で迷った人が北極星を頼りに助かった。（2話）
『冬のソナタ』 2002	北極星	今度、道に迷ったらボラリス（北極星）を探すんだ。僕が同じ場所で待っていたら道に迷わないよね。（2話）
『星を射る』 2002	星	星は真っ暗な闇の中で、光を放つもんだ（1話）
『張禧嬪』 2002-2003	北斗七星	病気の快復を願って北斗七星を祭る「七星壇」を建てる。（21話）
『人生画報』 2002-2003	北斗七星	北斗七星を探してみよう。わからないけども。あそこだ。変わらずあそこにいるんだな。（36話）
『1%の奇跡』 2003	星	星を取るには空を見ないと（12話）
『ローズマリー』 2003	流れ星	一人は流れ星になって、もう一人は願い事を言うの。（17話）
『王の女』 2003	北斗七星	北斗七星の玉衡（オッキョ）星は南の天の川を指し金色の光が西の屋根に差しました。（37話）
『あなたは星』 2004-2005	北極星	僕の心の星（北極星）になってくれてありがと。（196話）
『ガラスの華』 2004	北斗七星	北斗七星には、もうひとつ星がある。（12話） ★アルフォンス・ドーデ短編小説『星』を引用（12話）
『兄嫁は19歳』 2004	北極星 流れ星	「北極星だけが星なの？ 流れ星だって星でしょ。流星になって、美しく墜落してみなさいよ」（5話） ★アルフォンス・ドーデ短編小説『星』を引用（16話）
『乾パン先生とこんべいとう』 2005	星	詩「星」を引用。星をみつめていた少年が泣き出した。そこで星が尋ねた。（6話）、数多くの星の中で一つの星が私を見下ろす。大勢の人の中でその星をみつめる。（15話）
『宮~Love in Palace』 2006	星	人間に時があるように、星にも星の時間がある。（15話）
『大祚榮』 2006-2007	流れ星	流れ星（命の誕生を知らせる星、吉兆）（1話）“天下をとる帝王”を意味する流星が流れる。
『宮S~ Secret Prince』 2007	北極星	私も北極星が好きです。数ある星の中心になる星でしょう？ 宮廷はよく北極星に例えられるんです。（8話）
『大王世宗』 2008	北極星 星	北極星（王）の一番そばにある四つの星、四輔星を見て「自分の位置を確かめたかった」（77話）
『スターの恋人』 2008	星	夜空の星と大地の草はついに、2人が存在する世界を見つけたのでした・・・。（20話）
『ベートーベン・ウイルス』 2008	星	それは星だろう、見つめることしかできない。（5話）
『善徳女王』 2009	北極星 北斗七星	北斗七星（命の誕生を知らせる星） 太陽の一つが離れ、北極星となり、（中略）おまえは北斗の七星を見るのだ。（1話）
『シティーホール』 2009	北極星	あいつに北極星だと言っていたように、俺にも北極星みたいな何かをつけてくれ。（17話）
『美男（イケメン）ですね』 2009	星	星って沢山、ありますね・・・（中略）私は星をさがしてあなたのことを考えます。」（14話）
『花より男子~Boys Over Flowers』 2009	星	オリオンのシリウスという冬に一番強く光ってる星がオレの星。まさに道明寺司だろう？「それじゃあ、私はこれだ」と指す星は輝くプロキオン。2番目に輝く星、この星は子大座でキャンキャンはえるお前に合ってるよ。（22話）
『星をとって』 2010	流れ星	あの大きな星は、弁護士のおじさんの星にしようか？流れ星（13話）
『いたずらなKiss』 2010	北斗七星	北斗七星の朝鮮時代の詩を引用。「北斗七星1つ、2つ、3つ」（2話）
『トンイ』 2010	流れ星	落ちていく星を見るのは凶兆だとか。（57話）
『夜叉』 2010	流れ星	流れ星（凶兆の星）
『鉄の王 金首露』 2010	北極星	金の石に、神のお告げが。北極星を持った子が船を引き連れて来る。北方から来る子が王になる・・・と。（1話）
『オレのこと好きでしょ』 2011	流れ星	雨が降ってなければ、海辺に座って流れ星に願い事をしたのに。（9話）
『星も月もあなたへ』 2012	星	私はいつも自分だけの星を探していた。（中略） 私だけでなく、私たちの星を探すべきだった（123話）
『馬医』 2012	北斗七星	儂は北斗七星のようでそれは天の啓示であり、その機運を受ける陛下に似た王子を産めそうだしいい喜ぶ。（33話）
『星から来たあなた』 2013	流れ星	流れ星に願い事する？（21話）
『オーロラ姫』 2013	北斗七星	北斗七星の夢（47話）
『鯨（サメ）~愛の黙示録』 2013	北極星	北極星のように？ 常に北を示すから道に迷った人の道標になる。（8話）
『エンジェル・アイズ』2014	流れ星	そろそろ流れ星の時間だ。（10話）
『私の人生の春の日』 2014	星	★アルフォンス・ドーデ短編小説『星』を引用（3話）
『夜警日誌』 2014	流れ星	流星が落ちて来たために、宮廷に張り廻らされていた結界が壊れる。流星は大政閣に落ちた。（1話）
『I LOVE イ・テリ』 2015	北極星	いつも変わらない星、北極星…。つらいことがあっても、決して離れない恋人みたいに。（8話） 「僕が君の北極星になるよ」（9話）
『輝くか 狂うか』 2015	星	「行くところの闇が消え去り、明るい朝が明けるでしょう」紫微星の下に生まれた渤海王国最後の王女（1話）
『チャン・ヨンシル -朝鮮伝説の科学者』 2016	流星 北斗七星	流星雨のひと月後、世子様が王座に就いた。取り消しを求める重臣に王様は、北斗に誓った以上譲位は撤回できぬ。（8話）

（各ドラマより、筆者作成）

来し方行方を思うなどがあると思う。そのためか、日本のドラマに出てくる名もない星は、希望や目標というより、亡くなった人と重ねて見る描写がよく見られる。

では、星が出てくる日本のドラマを見てみるが、以下が、ドラマのタイトルと描写の星である。

- 『鬼平捕物犯科帳'90、中村吉右衛門版16話 流星』（1990.フジテレビ）-流星
- 『星の金貨』（1995.日本テレビ）-星
- 『空から降る一億の星』（2002.フジテレビ）-満天の星
- 『流星の絆』（2008.TBS）-流れ星、獅子座流星群
- 『流れ星』（2010.フジテレビ）-流れ星
- 『科捜研の女』シーズン17、File13「一番大きなバラ」（2018.テレビ朝日）-流星、バラ星雲
- 『熱血シングル・ファザー 新聞記者・新庄圭吾の事件ファイル3』（2016.BSフジテレビ）-満天の星
- 『みをつくし料理帖スペシャル「前編 心星（しんぼし）ひとつ」』（2019.NHK）-心星（北極星）

日本のドラマに出てくる星は、「満天の星」や「流れ星」で、星そのものがドラマのタイトルになっている。それらの星は、亡くなった親、妹と重ねてみる描写である。その背景には、前稿¹⁶で指摘したように、東日本大震災で満天の星にシンパシーを感じる日本人の星観があるからだ。

また、『みをつくし料理帖スペシャル 心星ひとつ』は、日本のドラマでは珍しく「北極星」が出てくる。このドラマは、高田郁の小説『みをつくし料理帖シリーズ7』の『心星ひとつ』

（2011）が原作になっている。星があまり出て来ない日本の小説にしては珍しく、このシリーズには、「心星」（北極星）、「鼓星」（オリオン座）、豊年星（アンタレス）、錨星（カシオペア座）、わざわい星（火星）、十字星（白鳥座）など、和名の星が出てくる。

物語は、主人公の漣は、かつて大阪の名店で料理人をしていたが、店は焼失し、江戸の店を任かされていた店主の息子も行方知れずになり、店主は、「天満一兆庵」の再興を女将に託し亡くなる。漣と女将は、江戸にやって来るが、女の料理人は受け入れられなかった。だが、蕎麦屋の店主が救いの手を差しのべてくれ、そこで働き料理を出すことになる。初めは、文化が違う江戸で苦勞するが、しだいに評判になり、店の再興と江戸一の女料理人をめざす。

そんな漣は、思い人で武士の小松原から「女房にならぬか」と言われ、料理人として生きるのか、それとも武士の妻になるのか悩み、医者源先生に、そんな時どうしたら良いのか尋ねる。そこに「心星」が出てくる。それが以下である。

漣：

源先生、道が枝分かれして、迷いに迷った時、源先生なら、どうなさいますか。

源先生：

私なら、心星を探します。そう、心星です。あそこに輝く、あれが心星ですよ。あの星こそが天の中心なのです。全ての星はあの心星を軸に廻っているんですよ。悩み、迷い、思考が堂々巡りしている時でも、きっと自身の中には揺るぎないものが潜んでいるはずですよ。これだけは譲れないというものが、それこそが、その人の生きる標となる心星でしょう¹⁷。

（下線は筆者）

16 前掲（註13）。

17 NHK土曜ドラマ『みをつくし料理帖スペシャル「前編 心星（しんぼし）ひとつ」』（2019年12月14日放送）。



【図5¹⁸】源齊先生が指す心星を見る滯

このように、「心星」の描き方は、人生の道に迷ったときの道標になる星として描かれている。

実は、まったく同じ描写が『冬のソナタ』にあるのである。原作が作られた年代を考えたとき、作者は韓流ドラマの影響を少なからず受けていたのではないかと思わせるほど両作品は酷似している。なぜそのように思ったのか。それは、北極星が人生を導く星として描く日本のドラマを探すのが、実はとても難しいからである。

では、筆者が似ていると思った『冬のソナタ』に出てくる北極星（ポラリス）の描写をここで紹介したい。ポラリスは高校生のときに一度出てくるが、ヒロインが社会人になり、婚約者と初恋の人に似ているミニョンの間で彼女の心が揺れ動く。その場面に、ポラリスが出てくる。それが、以下である。

ユジン:

ポラリスを知ってます? ポラリス

ミニョン:

知ってますよ。ポラリス（北極星）だ。

ユジン:

昔チュンサンが教えてくれたんです。山

で道に迷ったら、ポラリスを捜せて。季節が変わると他の星は動いてしまうけど、ポラリスだけは決して動かない。だから、迷った時の道しるべになるんです。

ミニョン:

ユジンさん、迷ってるんですね?

他の星が動いてもポラリスだけは動かないんですよね。だったら…たとえ他の人が許せず去って行ったとしても僕が同じ場所で待っていれば迷いませんよね? 僕を信じてくれる?

(下線は筆者『冬のソナタ』第10話)



【図6¹⁹】ポラリスの話をするユジンとミニョン

『冬のソナタ』や【表1】に出てくる北極星の台詞からわかるように、劇中の北極星はどれも同じ描き方で、人を強く導く星として出てくる。日本の『みをつくし料理帖スペシャル、心星』を見てみると、滯は心星を見て、自分は何のために料理人として日々精進しているのか、その原点を思い起こし、自分の進むべき道が何であるかを再確認する。このドラマは、日本人が好む満天の星や流れ星といった名もない星でなく、人を導く星として心星を描いているところが、希有なドラマといえる。

以上のように、日韓のドラマに出てくる星をみていくと、韓国のドラマに描かれる星は、登

18 同上。

19 ソニーピクチャーズDVD『冬のソナタ完全版』(2010)。

場実物が自分の夢が遂げられる目標としての星として描かれ、その星は、ほとんどが同じイメージである。しかし、日本では、満天の星や流れ星が好まれ、亡くなった人と重ねて描かれている。そこで本稿では、名もない星が出てくる『星を射る』を手掛かりに、名もない登場人物が互いに助け合って生み出す韓国人の精神世界を浮き彫りにする。

Ⅱ. 名もない星たちが描くそれぞれの夢

1. 『星を射る』（2002、SBS）

『星を射る』は、2002年11月から2003年1月にかけて韓国で放送され、平均視聴率35%²⁰をマークした大ヒットドラマである。いったいなぜここまでヒットしたのであろうか。理由の一つとして、韓国人独特の感情である「恨」と「情」の世界が描かれていることが指摘できる。

本ドラマは、『星を射る』というそのタイトルが示しているように、早くに両親を亡くし、芸能マネージャーをする兄と暮らすソラとその仲間たちが、それぞれの夢を射止めようと奮闘するサクセス物語である。しかし残念ながら、ソラをはじめとする登場人物たちは学歴も家柄もバックグラウンドもない、いわゆる様々な「不幸」を背負いながら社会の底辺で暮らす人々である。つまり、ドラマが大ヒットした背景には何も持っていない、言い換えれば「恨」の多い登場人物たちのドロドロの「不幸」と共に、夢をつかむために手段を選ばない陰謀と残忍さがつぶさに描かれている一方、バックグラウンドのない庶民同士が互いに助け合いながら、夢や希望を実現させていく「情」の世界をもきちんと描かれているからである。この「恨」と「情」は、韓国社会と文化を理解する上で欠かせない重要なキーワードなのである。



【図8²¹】 兄妹と仲間たち（右から）イエリン、ドフン、ソラ、ソント、パダ、ミリョン、アジョン

実は、韓国の諺に「天の星摘み²²」という、可能性のないことを努力しても無駄というたとえの言葉がある。それだけ韓国人は昔から、夢や希望や欲をもち、不可能な夢を掴もうとしてきた。そこには、上昇思考が強く、上を目指そうとする韓国人の精神があり、また、上昇志向が可能な韓国社会であるため、不可能と思える夢を抱き、実現しようとするのだ。そのため、韓国には、手に入らないものを求める社会的な空気があるように思う。

夜空の星でも名前がある星は、一部の限られた星であるが、その他の星はみな名前がない「名もない星」ばかりである。その名もない星を人間にたとえると普通の庶民を表わす。その「名もない星」が自分の憧れ、望み、夢を実現しようと狙いを定めて星を射ようとする。

ではドラマの中の「名もない星」は、どうだろうか。【表1】に出てくる「名もない星」は、韓国人が好む北極星や北斗七星と比べてわずかに多く12回もある。そのドラマの登場人物は、高学歴をもつ大学教授や医者、弁護士などのエリートの人たちでなく、私たちの身近にい

20 韓国ドラマ「『星を射る』完全攻略ガイド～夜空に輝くその夢を追いかけて」<https://www.showtime.jp/special/korea/guide/star/>（2020年10月19日検索）。

21 DVD『星を射る』添付「絵はがき」より。

22 金容権『韓国朝鮮ことわざ辞典』（徳間書店、1999）54頁。

るごく普通の暮らしをしている庶民たちである。庶民は、経済的にゆとりがなくても、困ったときや辛いときに助けてくれる家族や友だちが周りにいる。そんな人たちも、自分の夢をもって生きている。名もない星が出てくるドラマは、そのような一般庶民が登場し、物語を展開する。

特に、名もない星が出てくる韓流ドラマで注目したいのが『星を射る』である。このドラマは、俳優の卵の青年と年上の女性マネージャーのラブロマンスで、不可能な夢を追う、名もない星たちのサクセスストーリーである。

一般的に、夢はそう簡単に実現できるものではない。不可能な夢を掴み、成功するのは、ほんのひと握りのまれなる人で、ある意味とても恵まれた存在の人たちである。名もない星のような普通の人たちの夢は、はるかに遠いもので、殆どの人が掴めないものだが、このドラマは、何ももってない似た境遇の庶民が、互いに助け合って、不可能な夢の星を射貫く。では、あらすじを紹介する。

2. あらすじ

親のいないパダは、30歳になる妹ソラとソウルで暮らし、友だちのドフンと小さな芸能事務所を共同経営し、女優イエリのマネージャーと代行運転業をして生活している。そのパダは、妹を結婚させようと色々世話をやくが、ソラは、恋人のドフンと結婚するのが夢である。ソラの30歳の誕生日を一人寂しく迎えるソラを気の毒に思ったパダは、気を利かせてドフン、イエリンと共に、ソラを連れて釜山映画祭へと出かける。だが、宿泊先でソラが小火を出しイエリンの台本を燃やしてしまう。窮地に立たされパダたちを、ホテルのベルボーイのソンテが助ける。パダは、ソンテに自分の連絡先を教えて別れた。

まもなくして、仕事をクビになったソンテ

が、仕事を探すためにパダを訪ねてきた。パダは、突然やって来たにもかかわらず温かく迎え、その日から、自分の家に住まわせる。親切なパダにソンテは、孤児で幼い頃生き別れた養父母を捜すために、役者になりたいと話すと、パダは、難読症でも俳優になれると応援し、自分の芸能事務所に入れ、マネージャーになって支えようとする。

ソンテと同居してまもなくソラは、ドフンからプロポーズされ、婚約指輪を贈られ大喜びし、新居を買いたいとパダにせがむ。お兄さんと一緒に住める家なのと説得されたパダは、貯めてきたソラの結婚資金を全額ソラに渡し、ドフンに届けられる。だがその金は、ドフンの野心のために使われ、さらにソラとは結婚しないとされる。妹の結婚をあきらめきれないパダは、考え直して欲しいとドフンに訴え、もみ合いになり大けがをして、病院で手術を受けることになる。パダの入院中、ドフンは騙し取った金で大手芸能会社の社長に就任し、イエリンもドフンの事務所に移籍する。退院したパダは、一文無しになり、二人に裏切られ、マネージャーとして自信をなくし、ソンテを俳優にできないと話す。

失意のどん底にいたソラだが、ソンテが養父母を捜すために、障害を抱えても俳優になりたい夢を持っていることを知ると奮起し、ソンテのマネージャーになり、成功させようと頑張る。ソラは、難読症を克服させようと献身的に文字を教え、無名の俳優ソンテの売り込みに奔走するなど、マネージャーの仕事に情熱を燃やす。そのかいあって、映画の端役で辛い経験をしたが、準主役に抜擢され、パダとソラは喜び、文字が読めないソンテのために、台本を読んで協力する。だが、撮影に入ると共演するイエリンとドフンが妨害してくるが、絆が深まった二人は力を合わせて困難を乗り越え行く。やがてソラは、「私の星は、ソンテなの」

と、ソントも「僕の星は、ハン・ソラだ」と互いに愛を告白する。映画は完成し大ヒットとなり、ソントは売れっ子スターになり、パダもソラも忙しくなる。だが、ドフンの策略でイエリンとの熱愛報道を流され、ソラは悲しむがソントは会見で、ソラとの交際を告白してしまう。それを知ったパダは、ソントが妹より年下で、俳優とマネージャーという立場もあり、二人の交際を認めようとはしなかったが、お互いを思いやる二人を見て応援しようとする。ソントは、この件で仕事がなくなり、ドフンの事務所に移籍し、ソラはマネージャーを辞める。イエリンは、隠しておきたい過去がマスコミに暴かれそうになり、ドフンに頼るが断られる。やがてドフンは、ソントが捜している養父母とは、自分の親でソントが養子の弟だとわかると、彼の生立ちや障害を新作映画の宣伝に利用する。そんなドフンは、イエリンの告発で逮捕され、彼女自身も何処かに行ってしまう。

パダのことが好きだったソラの友人ミリオンは、ようやく彼と婚約ができ、また、一人暮らしをしていたソントは、ソラのもとへ帰り、ふたたびパダ、ソラ、ソントの共同生活が始まる。ソラとソントの結婚は、まだ先になるが、これからは、本当の三兄弟の家族になって、パダとソラはソントのカムバックに向けて、これからも支えていく。

以上が、あらずじである。【図8】のように、ソラが星を射るという感じで、まったく家事も何もできない30歳の女性が、俳優志望のソントをスターにさせただけでなく、お兄さんの助けもあり、ソントを狙い撃ちして結婚相手を手に入れたラブストーリーである。ソラはソントより7歳年上で、マネージャーと俳優という立場があり、本来ならば、結婚は不可能なことである。結婚の条件も良くなく、親もいない、金もない、学歴もないといったように何もっていないソントだが、自分が結婚しようとした夢は叶

えられ、狙いを定めた星を射ることができた。

このドラマは、ソラとソントが愛を射抜くという二人の恋愛を中心に物語が展開していくが、実は、これは単なるラブストーリーではない。名もない星の視点で観ると、韓国の「情」と「恨」の文化が端的に表われている。パダを中心に、パダの妹を思う情やソントのような他人への情といった彼等を助ける良い情と、パダを裏切り踏みにじるドフンとイエリンの悪い情と恨がある。このドラマは、ソラとソントの恋愛ドラマにとどまらず、「恨」と「情」という二つの側面が描かれている。では、はじめに恨から見ていく。

Ⅲ. 垂直の「恨」（ハン）

韓国のドラマの主人公はたいてい密度の高いドロドロの不幸を背負わされている²³。そのドロドロした感情が「恨」である。恨とは、日本語の「恨み」とは違う概念で、「恨み」は相手に復讐することによって解消するが、「恨」は「ハン」という感情の土台になっているものが「あこがれ」で、自分が本来いるべき場所、あるべき姿、そのような「理想的な状態」へのあこがれである。

しかし、その「あこがれ」も人によって違い、他人より上位の優れた場所・状態である場合や、また普通の人なら誰でも享受できる平凡な幸せのこともある。しかし、人生はつらいもので、「理想の状態」に到達できない人もたくさんいる。そのようなときに韓国人は、「恨を抱く」。恨とは、「あこがれ」であり、それが何らかの理由で挫折したときに抱く「哀しみ、無念」の情なのだ²⁴。ここでは、スターを目指すイエリンと成功を夢見るドフンが、野心や欲望のために仲間を裏切って上昇しようとする「恨」の世界がある。では二人は、どのような

23 小倉紀蔵『心で知る、韓国』（岩波書店、2005）3頁。

24 前掲（註11）108-109頁。

恨を持って生きているのか。まずイエリンの恨から見ていく。

1. イエリンの「恨」－ 貧しい生立ち

昔、ホステスをしていたイエリンは、パダの前では、泥の中に咲くスイレンのような純情な女を見せているが、ドフンの前では、目的のためには手段を選ばない、したたかな女の顔を見せる。それがわかるのが、釜山映画祭でとったイエリンの行動である。ドフンは、上映される映画の監督にアピールし、イエリンの仕事を取ろうともくろみ、イエリンに監督と接触しろと指示する。そこで彼女は、多くのファンが監督を囲む中で、花束を抱え2階の階段からわざと足を踏み外し監督の前に崩れ落ちる。ドフンは、どん底を味わった人間は強く、したたかになると言って、彼女がしたこと満足し、イエリンに次のような言葉をかける。

ドフン:

やるじゃないか。見直したよ。

イエリン:

見てたのね。

ドフン:

心配でね。引け目を感じることはないさ。俺は君のしたたかさを買っている。鋭いツメを隠しているその賢さをね。

(『星を射る』第1話)

ドフンとイエリンの関係は、このように、互いに利用しあう仲なので、目的が一緒だとうまくいくが、利害関係が崩れると、二人の本性がむき出しになる。イエリンは、ドフンがパダに怪我させた現場を目撃し、パダから財布を抜き取り、それを利用してドフンが社長に就いたパワー社に移籍させろと迫る。その時の会話が、以下である。

ドフン:

育ちは隠せないな、俺を見くびるな。

イエリン:

夕べ見たことを話せばどうなる?

ドフン:

そんな脅しで、俺が態度を変えらと思うか。

イエリン:

言ったでしょ。スターになるためなら何でもするって。偶然目にしたことがチャンスになるなんてね。

ドフン:

お前をパワー社に入れろと?

(『星を射る』第4話、下線は筆者)



【図12】脅して移籍を迫るイエリン

イエリンは、なぜここまでするのか。それは、イエリンの貧しかった生立ちから来るものだろう。ホステスという水商売は、パダたちよりさらに低い身分である。底辺社会で暮らしてきた彼女は、のし上がるために、身体ひとつで上に行こうと人を利用して今日まできた。

ドフンから「育ちは隠せない」と言われたが、イエリンは、その辛い生立ちを「恨」にして、上昇しようとする。そのためには、目的のためなら何でもし、利用できる人間を利用し、人を踏み台にして昇るしかなかった。そんな彼女をパダは何とか女優にしようといろいろ面倒を

見てきた。しかし、そういうパダは、むしろイエリンが上昇するための通過点に過ぎず、利用され、裏切られる。イエリンは、悪女の典型的なパターンである。

このように、パダは、イエリンに対しても情を注ぐが、彼女はむしろ、情より上昇しようとする。パダから見ると厚い情をイエリンに注ぐがイエリンから見ると、情がない。

イエリンは、ソントのようなファンがつくほどの女優になったが、自分の夢も欲望も多いため、さらに上昇しようとする力が強く、恩義を受けたパダに恩を返すこともなく、自分のことしか考えない自己中心的な人間として生きるしかできなかった。その結果、自殺未遂してパダに命を助けられても、黙って姿を消す。

2. ドフンの「恨」 — 金持ちから転落

ドフンの父親は事業家だったが、無理な融資によって会社を倒産させてしまう。事業が順調なとき、ソントを施設から引き取り養子として迎え、ドフンに弟ができ幸せな暮らしをしていた。ところが、会社が倒産すると貧乏な生活に一転し、両親を失い、弟になったソントをまた施設に戻すという辛い過去がある。その後、彼はがむしゃらに働き、パダと芸能事務所を作った。しかし、芸能の世界からすると、ドフンたちの芸能事務所は小さく、人気俳優もいないので、仕事の交渉に行っても相手にされない。そのため、パダが釜山でイエリンが人気若手俳優に酔って絡まれているのを見ていられず殴った時も、「それでいいことがあるか？ イエリンが大女優になればこんな扱いも受けずに済む。そのためなら何だってがまんしろよ」と悔しさを爆発する。そして、以下のように、パダに激白する。

ドフィン:

俺は成功を望んでいる。成功こそが幸せなんだよ

パダ:

必要としてくれる相手を支えるのがマネージャーだろう。

ドフィン:

それは、お前の勘違いだ。自分に必要な人間を育てるのが仕事だ

(『星を射る』第1話)



【図13】 成功を望むドフィン

ドフンは、父親の事業の失敗から、成功を望み、成功こそが人生の幸せと強く思っている。パダもマネージャーとして、イエリンを陰で支える仕事の中で辛い思いをしているが、ドフンは経営者としての悔しさを常に感じている。そのため、今の生活から抜け出そうと上昇に燃えている。このように、上昇志向が高いドフンは、これまでに味わった悔しさを「恨」として生きているため、成功という大義のため、友だちを裏切っても仕方ないと割り切っていた。

そのきっかけとなったのが、パワー社が2億円で倒産するかもしれないとパダがもちこんだ話である。ドフンは、資金もないのに、すぐに単身パワー社に乗り込み、社長に「そちらの状況はすべて存じています。私は、共同経営者という力が欲しい。10億の投資もお約束します。悪い話ではないはず」と話しを切り出す。そのためドフンは、買収するための資金集めに、父

親の知人などを訪ねるが、誰も相手にしてくれない。焦ったドフンは、ソラの結婚資金に目を付け、偽りの求婚をし、手に入れた金で社長に就く、という裏切り行為をする。

ドフンも、利用できるものは、何でも利用する人間なのだ。ソンテが探していた養父母は、実は自分の親で、養子の弟と分かると、映画製作発表の席で、主役にソンテを選んだ理由を「身寄りがなく、識字障害を乗り越えて成功した彼はまさに適役」と説明する。さらに、捜していた弟がこのソンテですと公表し、映画の関心を高めようとする。捜してもいなかった養子の弟が見つかり、それさえも仕事に利用する。ドフンは、最後の最後まで悪者で終わる。

親も学歴も金もコネもないといったように何も持っていないイェリンやドフンのような境遇では、中々出世できないし、上昇ができない。何もない人が出世するには、利用できるものは最大限に利用し、人を踏み台にして昇っていくしか方法はない。裏を返せば、それだけ二人には、恨というものが多ということである。

IV. 水平の情（ジョン）

このドラマの、もう一つのドラマがここにある。それは、不可能な夢を実現するために、仲間が支え合い協力する「情」の世界である。その情という言葉は、韓国にはいくつもある。たとえば、「情の多い人」とか「情に厚い人」、「情が深い」、「情が流れる」、「情を注ぐ」という言い方をする。これは、韓国人が「情」で生きる民族であることを表わすもので、情は、韓国人固有の情緒で、「情」が他人を思う感情であり、相手を配慮する感情なのである²⁵。そのため韓国人は、自分の利益や見返り

を求めない情がある一方で、「情がない人」とか、「情を離れる」といった人情に薄い人の情もある。このように、情には、美しい情や優しい情といった「良い情」と、正反対に醜い情や憎い情といった「悪い情」もある。

その情とは、長い年月の中で自然に生まれてくるもので、韓国人が感じる最高の情は、家族と接することによって生じるもので、父母と子供たち、兄弟、姉妹の間で感じる情ほど神聖なものはない²⁶。それが顕著なのが、パダの妹への情である。さらに彼は、他人のソンテにも強い情を注ぐ。

今の日本では、あまり聞かれなくなったが、「人情のある人」とか「情が厚い人」という言葉が使っていたこともあり、パダの情を見て、懐かしさを感じ、温かな気持ちになる。韓国にはさまざまな情があるが、ここでは、パダの妹への情をみていく。

1. 無償の情 — 妹への「情」

1-1. 予備校のソラ

このドラマは、視聴者もメディアもソラとソンテの恋物語としてみているが、実はパダの視点から見ると、30歳の妹を何とか嫁に行かせようとする兄の強い思いがみえる。

30歳になるソラは、仕事もしない、家事もしないで、だらけた生活を送っている。しかし、それだけでなく、さまざまなわがままを言ってパダを困らせている。このように、妹を甘やかしているがそれでもパダは、全面的にソラを受け入れ、そんな妹でも可愛くて良いところに嫁がせようと考えている。良いところに嫁がせるためには、学歴が必要である。パダは、学歴をつけ良いところに嫁ぐことが、妹の幸せにつながると真剣に考えているので、経済的余裕がないパダは、あらずじで述べたように、二つの仕事を掛け持

25 中川圭輔「韓国型企業不祥事の特徴に対する文化的試論—韓国人の行動様式及び心理的特性に着目して」(2014) (https://www.erina.or.jp/wp-content/uploads/2014/01/pp11820_tssc.pdf) 52頁。ソン・ウォンチャン韓国国学振興院『韓国人の文化遺伝子』（アモルムンディ、2012）による。（2020年10月27日検索）。

26 金榮勲著・金順姫訳『韓国人の作法』（集英社、2010）211頁。

ちして、ソラを予備校へ通わしている。だが、当の本人はまったくやる気がなく、学校をさぼることも珍しくなく、勉強もしないで、試験も適当に解答用紙に印を付けている始末で、大学へ行くつもりがない。ソラは、自分の本心を友だちのミリヨンとアジョンに、次のように話す。

ソラ:

兄さんにも困ったわ。まだ私を大学へ行かせる気での。

(『星を射る』第1話)

このようにソラは愚痴をこぼすが、彼女自身、妹の自分が良いところに嫁ぐためには、やっぱり高卒では無理だし、学歴があるほうがいいと、口には出さないが、お兄さんが自分に何を望んでいるのか分かっているの、本心を言えないでいる。

一般的に考えると、30歳の大人が定職にも就かず、兄の世話になり、学費も出してもらい、それで怠けているのはありえないことだ。だがパダは、妹が今さら学歴をつけても仕方ないことだと分かっているが、それでもここにパダがこだわっているのは、やはり良いところに嫁に行かせたいという厚い妹への愛情があるからだ。そして、これが、パダの役割であり目標と思っているのだ。

韓国は、学歴社会の国である。この韓国で生きるためには、学歴が必要だし、結婚のときも学歴を求められる。そのことを分かっているの、仕事をさせるよりは、まだ予備校に通わせ、良いところに嫁がせようと思っている。このようなパダの妹への思いは、親がないパダにとっては、親心の情であり、これが韓国式の情なのだと思う。また、良いところに嫁がせるために学歴を付けさせているのは、実は、お母さんの約束があるからだ。では、その約束とはどのようなものなのか、次で見ていく。

1-2. 母親との約束 — 「兄弟星」

韓国の家族関係からすると、女性は結婚しなければならぬという考えがあるので、パダは、30歳になる妹を予備校に行かせ、結婚費用を貯めるために、昼も夜も働いている。その背後には、亡くなったお母さんとの約束ある。

その約束とは、お母さんが亡くなる前に兄妹に教えた童謡の「兄弟星」である。ソラがわがままに映る理由が、その歌と深く関わる。そういう意味において、とても重要な役割を果たしている。では、「兄弟星」とは、どんな内容の歌なのか見ていく。

ある夜、酔ったソラが、パダにおんぶされて帰る途中で、むかし母さんが教えてくれた童謡を歌ってと兄にねだる。その時の会話が、以下である。



【図9】「兄弟星」を歌うパダ

ソラ: 兄さん、あの歌を歌って。

パダ: 母さんを思い出すな

パダ: 夕暮れの空に 星の三兄弟 仲良く
キラキラ光ってる

ソラ: 母さんは、先に逝かって知ってたのかな。子どもに教えるには、悲しげな歌よね。

(『星を射る』第1話)

パダは、30歳になる妹のソラを「おんぶ」して街を歩いているが、韓国ドラマには、このように恋人や妹をおんぶする場面がある。韓国ドラマでは、言葉やしぐさ、行動で、さまざまに愛を伝え合う。その代表が「おんぶ²⁷」だ。この場面で、パダが兄として頼りがいのある男で、ソラはパダに守られて生きていることがわかる。

パダがソラにせがまれて歌ったのが、方定煥が作詞した童謡「兄弟星（형제별）」で、韓国人なら誰でも知っている有名な歌である。歌詞の原文と日本語訳は、以下である。

「형제별」

저무는 하늘에
별이 삼형제
반짝 반짝 정답게
지내이더니
웬일인지 별 하나
보이지 않고
남은 별만 돌이서
눈물 흘리네

「兄弟星」

日暮れ時の空に
星が三兄弟
キラキラなかく
過ごしていたが
なぜか星ひとつ
見えなくて
残った星が二つだけ涙を流しているね²⁸

(下線は筆者)

ソラがパダに言うように、「兄弟星」は悲しい歌である。ソラはパダの背中で、幼かった頃

の記憶を思い出し、子どもを残してこの世から去った母親の心に思いを馳せている。歌詞の「星が三兄弟」から想像すると、あるところに三兄弟がいて幸せに暮らしていたが、ある日、何かの事情でひとりの兄弟が家族と離れて、遠いところに行ってしまう、ひとつの星が見えなくなる。残された兄弟二人は、見えなくなった星を思って泣いているという解釈ができる。

母親からこの歌を教えてもらったパダは、父親がいなかったので、お母さんがこの歌で何を自分に伝えようとしているのかすぐに察した。母親は、自分が死んだらこの世には、兄妹だけになってしまう。妹を悲しませないで、仲良く幸せに暮らして欲しいと、一家の長であるパダに頼んだのである。パダはこの歌を、自分に妹を託して死んだ母親からのメッセージだと受け止め、それからというもの、星がいつもキラキラと光ってられるよう妹を守ってきた。パダが歌った「兄弟星」は、「兄妹愛」を意味している。

30歳ともなると、当然仕事して結婚費用などを稼ぐのが当たり前だが、ソラはそれをしないで、毎日特に何をすることもなくただらだと暮らしている。それを兄が、全面的にソラを支え、一生懸命に面倒をみてあげるということは、やはりお母さんの「兄弟星」に隠された思いと、妹だけは何かあっても守り通す。そうして描かれたのが、韓国の「家族愛」なのだ。

家族愛としてパダは、底辺で貧しいからこそ妹に何とか幸せな結婚生活を送ってもらいたいと考える。だが、良いところに嫁がせたいと思うとそれなりの学歴が必要なので、予備校に行かせる。これは、妹を何とか結婚させようとする、兄の妹への愛情である。日本人からみると、「なぜ、どうしようもない妹の面倒を見ているのか」とか、ソラに対しても「いつまで自立しないのか」という思いが出てくるだろうが、韓国人の場合は、お兄さんだからやってあげるべきだと思う。これが韓国の「情」といえる。

27 平林亨子「テレビドラマ」、小倉紀蔵・小針進編『韓流ハンドブック』（新書館、2007）36-37頁。

28 「ヌルボ・イルボ、韓国文化の海へ、韓国映画『星の3兄弟』（1977）を観て②」<https://blog.goo.ne.jp/dalpaengi/e/4ec13c333b8231844bbe3efedc72e40>（2019年2月19日検索）。

2. 分かち合いの「情」

2-1. パダを訪ねるソンテ

あらすじで述べているように、ある日、釜山で連絡先を教えたソンテが、何のまえぶれもなく突然パダを訪ねて来る。その場面が以下である。

パダ:

や! 君は、ク・ソンテ。思ったより早く来たな。俺が気に入ったか。

ソンテ:

バイトをクビになって思い浮かんだんです。いい人そうだ。僕は、文字が読めないんです。よく軽蔑の目で見られる。でも、あなたは違いました。当分やっかいになります。

パダ:

飲もう、俺はケチ男だが、今日は特別だ。ソウルへ、ようこそ!

(下線は筆者、『星を射る』2話)



【図10】ソンテを歓迎するパダ

パダは、釜山のときソンテの暗記力で助けもらったが、ソンテのことを殆ど知らない。その彼が、何の連絡もなく、ソウルに住んで仕事をするためやって来た。一般的な常識でいえば、ほんの少し世話しただけの相手から、当分世話になりますと、いきなり言われたら困って

返事に悩むだろう。ところがパダは、ずっと前からの友人のように、「ようこそ」と言って歓迎し、すんなり彼を受け入れている。ソンテも、温かい言葉をかけられると、親切でいい人と思って安心したのか、自分の話をする。日本にも、このような温かい人情が見られた時代があった。国民的な映画として知られている『男はつらいよ』の寅次郎は、困っている人や落ち込んでいる人をみたら放っておかず、自分そっちのけで面倒みるので、今もフーテンの寅さんとして愛され続けている。

パダのこうしたソンテへの優しさは、韓国人の弱者意識、被害者意識が甘えに変わった情がもたらす社会現象からくるもので、韓国人は漠然とはあるが、貧しい人が金持ちに、ない人が学識のある人に甘える傾向がある²⁹。パダの無謀に思える行為は、韓国的情からいうと、弱者から弱者を、あるいは、同じ境遇の者が自分よりちょっと上の者が助けてやるという、同じ境遇の者同士が助け合って生きる韓国文化である。実はこのドラマにも、そういうところがある。そのため、いきなりやって来たソンテも韓国人らしい態度で、また受け入れたパダも韓国人らしいのだ。だが、日本人は、ここに違和感を覚え、理解できないところである。

パダは、30歳になる妹を良いところに嫁に行かせるために、予備校に通わせている妹への情があると前述したが、他人のソンテに対しても、自分より貧しく辛い立場のソンテを放っておかず、同居だけでなく、仕事を一緒に探そうと世話をやく。ソラと同じくらいの厚い情を流し、同居して一緒に食事するまでになる。

韓国で、このドラマが視聴者に受けた理由は、弱者が弱者を助ける韓国社会の情の文化があるからで、そこにみんなが共感したからである。

29 李圭泰著 尹淑姬・岡田聡訳『韓国人の情緒構造』（新潮社、1995）83頁。

2-2. 障害をもつソンの夢を応援する

パダは、難読症という障害があるソンと同居するようになり、彼が役者志望であることを知る。すると、自分も若い頃、役者になりたくて学校に通い、オーディションも受けたが、才能がないと気づきやめたと、自分のことを話す。それを聞いたソンは、昔はそんな夢を持っていたが、今は、文字が読めないからあきらめたとする。普通の人であったら、難読症だから俳優にはなれない、不可能な夢だと考えるが、パダは悲観的に考えず、もっと彼を面倒見ようとする。その気持ちが表れているのが、次の会話にある。

パダ:

今度、聞いてみたいよな。トム・クルーズに。彼も文字が読めないんだ。識字障害とか言ったな。確か、文字が理解できない病気がさうだ。君と同じじゃないか。彼のマネージャーが台本を読むらしいぞ。

ソン:

本当に?

パダ:

君は記憶力が抜群だ。一度聞けば覚えられる。台本は耳で覚えればいい。道路の標識と食事のメニューはマネージャーに任せろ。例えば、俺とかね。

ソン:

パダさんが僕のマネージャーに?

役者になれますか?

パダ:

演技力もあるし、ルックスもいい、それだけで十分だろう。

(『星を射る』第2話)

パダは、このように、精神的なサポートだけでなく、台詞を覚えるのに必要な携帯録音機を買って与え、さらに、安心して仕事ができるよ

う、兄妹が住んでいる部屋を、契約金代わりに明け渡すなど、一度しか面識がないソンを、全面的に信頼し支援する。パダのこうした行為は、外国人からみると理解できないだろうが、韓国では近代化が進み、核家族も増えて、兄弟も少なくなり、情が薄らいできているが、それでも、彼のように、自分より貧しくて弱い人には、仕事の面倒を見てあげる人たちがまだいる。

障害をもつソンの夢を実現させようと、パダを中心にソラやミリオンたちが力を合わせて面倒を見ていたが、その中で、ソラはだんだんソンのことを好きになり恋をする。しかしパダは、そんなことまったく気づかない。パダがソンを本当に親身になって、何の利益なども考えないで面倒を見ているところに、ソラも感動する。パダはソラに注いだように、ソンに対して無償の情を流す。

2-3. 同じ釜の飯を食べる

パダは、ソラに相談もせずいきなりソンを同居させたこともあり、ソラはソンを素直に受け入れようとはしなかった。ところが、ソンがパダの入院費用を工面したことで、ソンへの意識が変わる。

あらずじで述べたようにパダは、ソラを捨てたドフンと喧嘩中に怪我し、救急車で病院に搬送され手術を受けた。しかし、無一文になってしまった兄妹は、退院するのに入院費用が払えず困っていた。ソラは、ミリオンから借りたり、婚約指輪を売ったりするが、それでも足りない。その状況を知ったソンは、ソラに黙って大家さんに保証金を返して欲しいと頼み込む。そのかいあって、大家さんはソラに「本来なら返金しないが、パダさんのために特別に返してあげるわ」と言われ、安堵し、ソンを見直し彼に感謝する。

ソンが、パダのために出来た理由は、やはりパダに、家も食事仕事も助けてもらった恩

があり、その恩を返すために、今度は、パダを助けようと大家さんに出向いて頼んだといった、パダへの男の情があったからである。パダが退院した日、ソнтеはソラを「姉貴」と呼び、ソラも「弟なんかいない」と言いながらも笑顔で喜びそれを受け入れる。パダもいろいろなことがあったが、障害があってもソнтеの夢を実現するために、妹と一緒に応援する。

ところで、韓国には、パダ、ソラ、ソнтеというように、血の繋がらない他人とひとつ屋根の下に住み、「同じ釜の飯を食べる」疑似家族「食口（シック）」の文化³⁰がある。貧しい者たちが、生きるために互いに助け合う、また、厳しい社会を生き抜くために、同じ境遇の者同士が支え合って生きるという、韓国人の知恵でのひとつである。この文化から見ると、韓国人は、親しい他人との距離が非常に近く、日本人は、それに対して一定の距離を保って他人と付き合おうとする。このような意識をもつ日本では、絶対に他人と食口にはならないだろう。



【図 11】 兄妹と同じ釜の飯を食べるソнте

このように、最初は同居からはじまったパダとソラとソнтеだったが、パダが障害のあるソнтеを受け入れ、兄妹でソнтеを支え応援したことで俳優として成功する。その過程で、パ

ダ、ソラ、ソнтеの三人は、様々な困難に直面し辛い思いをするが、力を合わせて乗り越えたことによって、関係が深まる。そして、ソнтеとの関係も、「他人」から同じ鍋を食べる「食口（家族）」になる。そして、「兄弟星」の欠けていた星を取り戻して、三兄弟の名もない者たちが、不可能な夢を実現するために助け合って夢を掴む、これがまさに韓国の「情」の世界といえる。

おわりに: 夢に向かって「星」に矢を射る

このドラマが面白く、約4割の人が観たのは、仲間を助け合って支えようとする情とドロドロとした恨があったからである。視聴者は、イエリンとドフンの欲望の限界にイライラさせられるが、パダの情がドロドロした恨で固まった二人の心を解かす。そこがドラマの魅力である。そして、最後には、パダの名前「海」（韓国語で「바다.pa-da」、漢字語は「海」）のような、広い心と情でイエリンやドフンを許し、ハッピーエンドになり、みんながほっとするのは、やはりパダの情があったからだ。

このように、上昇しようとする欲望に燃えているイエリンとドフンを軸に、パダの情が横に並ぶ。それでドロドロさを解かす。それによって、視聴者は、心が癒やされる。

このドラマを星の視点から見ると、恋愛話だったものが、まったく違う「情」と「恨」の二面性の物語だということがわかる。そこから、韓国人の生き方や精神世界が見えてくる。そのため、韓流ドラマを論じるには、「星」はかかせないのだ。

参考文献

- ・李圭泰著、尹淑姫・岡田聡訳（1995）『韓国人の情緒構造』新潮社
- ・小倉紀蔵（2004）『韓国ドラマ、愛の方程式』ポプラ社

30 前掲（註11）120-121頁。

- ・小倉紀蔵・小針進編（2007）『韓流ハンドブック』新書館
- ・小倉紀蔵（2005）『心で知る、韓国』岩波書店
- ・金容権（1999）『韓国朝鮮ことわざ辞典』徳間書店
- ・金栄勲著、金順姫訳（2010）『韓国人の作法』集英社
- ・林香里『「冬ソナ」にハマった私たち』（2005）文藝春秋、

<論文資料>

- ・丁貴連（2006）「『韓流』『嫌韓流』、そして『韓流』」『アジア遊学92 世界のコリアン』勉誠出版
- 丁貴連・樫宿英子「韓国人と星、そして韓流ドラマー東日本大震災と「満天の星」を手掛かりとして-」（2020年9月）宇都宮大学国際学部研究論集第50号

<月刊雑誌・週刊誌資料>

- 『週刊文春WOMAN』（2020年秋号）文藝春秋
- 『文藝春秋』（2020年10月号）文藝春秋

<新聞資料>

- 『朝日新聞』（2014年3月6日付け）29面
- 『朝日新聞』（2020年9月8日付け）23面
- 『朝日新聞』（2020年11月29日付け）20面
- 『河北新報』（2013年4月2日付け）

<インターネット資料>

- ・稲田豊史「『梨泰院クラス』が「韓流嫌いの中年男性」にも響いた3つの理由」<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/74070>（2020年11月10日）
- ・韓国ドラマ「『星を射る』完全攻略ガイド～夜空に輝くその夢を追いかけて」<https://www.showtime.jp/special/korea/guide/star/>（2020年10月19日）
- ・中川圭輔（2014）「韓国型企業不祥事の特徴に対する文化的試論-韓国人の行動様式及び

心理的特性に着目して-」

https://www.erina.or.jp/wp-content/uploads/2014/01/pp11820_tssc.pdf（2020年10月27日）

- ・『NEWS ポストセブン』「コロナによる外出自粛でブレイクした「第4次韓流ブーム」（2020年8月8日付け）<https://news.goo.ne.jp/article/postseven/entertainment/postseven-1584584.html>（2020年11月17日）
- ・「ヌルボ・イルボ、韓国文化の海へ、韓国映画『星の3兄弟』（1977）を観て②」<https://blog.goo.ne.jp/dalpaengi/e/4ec13c333b8231844abbe3efedc72e40>（2019年2月19日）
- ・「百田尚樹（@hyakutanaoki）November 23, 2020」<https://twitter.com/hyakutanaoki?lang=ja>（2020年11月24日）

<DVD資料>

- DVD『トンイ』バップ（2012）
- DVD『冬のソナタ 韓国KBSノーカット完全版』ソニーピクチャーズ（2010）
- DVD『星を射る』メディアファクトリー（2006）

<日本のテレビドラマ資料>

- ・『鬼平捕物犯科帳' 90中村吉右衛門版、16話流星』（1990、フジテレビ）
- ・『科捜研の女』シーズン17、File13（2018、テレビ朝日）
- ・『世界にいいね！つぶやき英語』（2020年、NHK、Eテレ）
- ・『空から降る一億の星』（2002、フジテレビ）
- ・『流れ星』（2010、フジテレビ）『星の金貨』（1995、日本テレビ）
- ・『熱血シングル・ファザー-新聞記者・新庄圭吾の事件ファイル3』（2016、Sフジテレビ）
- ・『みをつくし料理帖スペシャル「前編 心星（しんほし）ひとつ』』（2019、NHK）
- ・『流星の絆』（2008、TBS）